

# あそびの中での学び



石川 征子

## 一、教育課程を根幹とする計画

本園の教育課程の前がきで、つぎのように書きま  
した。

—教育の構造改革が相当なスピードで進んでいま  
す。時代の時間は後戻りさせることはできません。  
幼児教育も決して安泰なものではありません。こと  
もの遊びを中心とする教育が、何となくあいまいな

説明不能なものでよいという考え方は、もはや通用  
しません。—

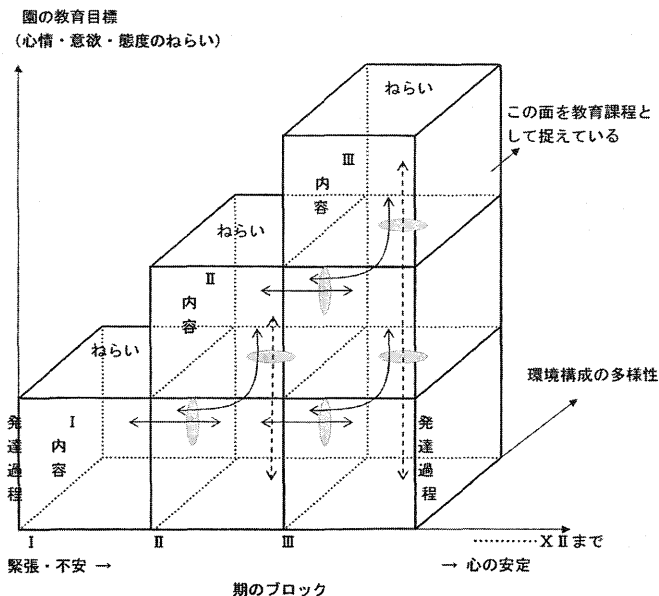
若い教師たちに伝えることばとして、自由な教育  
(主として、オープンシステムやチーム保育によ  
る)の実践には、明確な計画と成果を欠くことはで  
きないということを、伝えたいと思いました。本園  
の教育課程は、「二人一人のよさと可能性を生かす」  
ことの追求から生まれました。入園から卒園まで

を、十二のブロックで構成しています。

ブロックの高さは、発達過程を示し、教育目標に向かう軸にあります。ブロックの底辺は、時間（順序）の軸にあり、こどもの心を考えると「緊張・不安」の出発点から、「安定」へ向かう軸です。ブロックの奥行は、「環境構成（計画）」によって変化し、薄くも厚くもなると考えています。

この三辺から構成されるブロックの中に、内容がこめられ、一番上の面に、そのブロックのねらいがあると想定しています。こどもは、このブロックの中をたえず変動しながら次の新しいブロックへ移っていき、最終的には、一番最後のブロック（十二）のところで、幼稚園のくらしを終了すると考えています。

平板に考えれば、十二の最終ブロックの面



▲こゆるぎ幼稚園の教育課程の構造 1

を下から上へとらえたものが、教育課程として表記できるものであるかもしれません。

この構造は、目の前のこどもの姿を、どのように受けとめられるかをイメージしやすいと思っっています。また、一つのブロックから次のステップアップしたブロックに移るところで、どのような指導やこどもへの働きかけが有効であるかということを感じやすくし、計画にとり入れやすいと感じています。

このことは、「最適の教育は、成熟している機能ではなく、成熟しつつある機能に対してなされなければならぬ。」（ヴィゴツキーの新・幼児教育法―北大路書房による）という、ヴィゴツキーの最近

接発達領域への働きかけを、考え合わせることができます。

今、こどもたちに、どのような力をどのような方法でもたせようとするのかは、この教育課程を根幹として計画されるものです。

## 二、遊びの構造図（ストラクチャー）

幼稚園での遊びは、さまざまな様相をみせて、広がっていきます。

教師の計画を読むとき、「こどもから、……のような意見がでたので」とか、「こどもの側から……」という表記の多いことに気づきました。

こどもの遊びの「主体性」・「主体的に遊ぶ」という一律のとらえ方に縛られすぎて、そうでなければ価値がないような膠着した指導の不自由さを感じたのです。

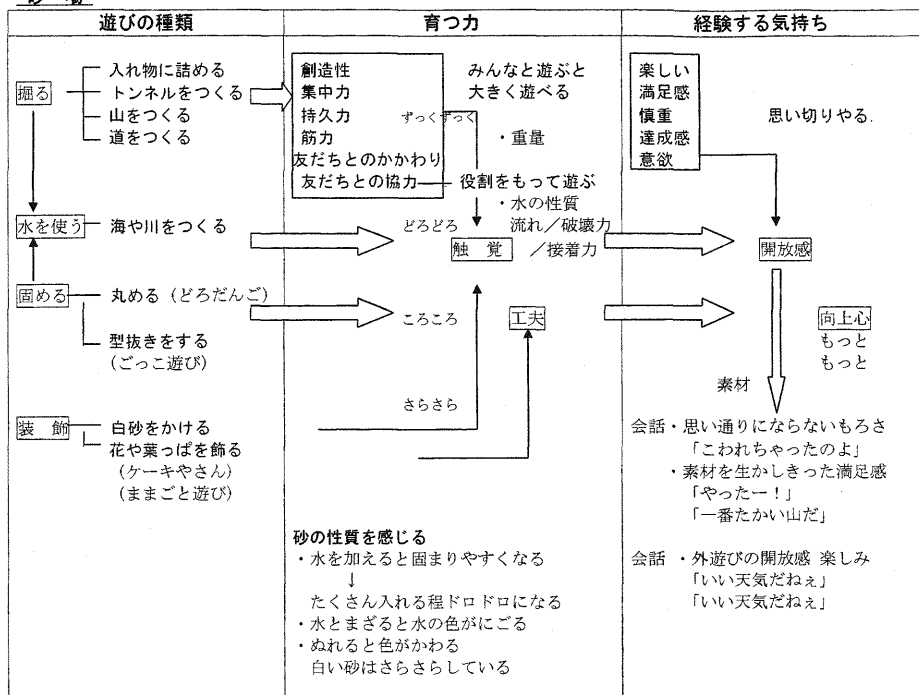
### 留意点

友だち同士同じ「掘る」動作をしていても作りたいもののイメージが異なっていることがある。

着替えや足拭きマットを用意する。汚れてしまったことを極端に気にする子どもがいる。

こゆるぎ幼稚園

# 砂 場



## ▲ストラクチャー（1）砂場

こどもの発達過程を思い起こすことや、こどもが遊びたいと願った質を考え合わせることで、より多くの、自由で楽しい教育を実現していけると考えました。また、そこにこそ、教師の専門性が発揮されなければならないと思うのです。

遊びの構造の研究は、平成九年度からはじまりました。

幼稚園の遊びの中で、こどもたちがどんな力を育て、どのような気持ちを経験しているのかを注意深く見続けました。遊びの構造図（ストラクチャー）は、加筆・修正をしながら、現在、二十枚になっています。

## 留意点

- ・色々な形をした透明な容器  
(容量の考え/計量カップ  
水さしなどの注ぎやすいもの)
- ・グラディエーションのおもしろさ  
(傘の袋を用意して、容量を変えなが  
らつるしたりアーチを作った  
りする)
- { シャボン液をつくる  
ストロー 容器を用意する  
使ったものの片付けを自分で  
出来るよう促す
- { 洗濯用たらいを用意する  
干す場所も必要により用意する
- { 自分の容器が取り出しやすいよう  
入れ物を用意する  
自分で管理するよう促す
- { 安全面に配慮  
入る前は体操をする  
着替え  
後始末を自分で行なうよう促す

こゆるぎ幼稚園

この季節に、どの園でも見られるこどもの遊びのストラクチャーを提示しました(38～43頁)。構造図を書く目的は、当時の初等教育資料に載せられた北海道教育大学の笠間先生の論によりました。

(1) 遊びを漠然ととらえるのではなく、遊びには、さまざまな指導の観点、かわり方があ  
ることを意識する。

(2) 遊びのもつ特性や意義が明らかとなり、一人一人の子どもが有するそれぞれの発達の課題に沿うような指導や援助の視点を明確にすることが可能になると思われる。

(3) 子どもの回りに構成すべき環境やその必然性がみえてくる。

以上の三つですが、後にわたくしたちのストラクチャーは、先生の想定されたスタイルとは、違うものであることを知りました。

しかし、教師の指導計画を書く上では、三つの目的を果たし得るものとなっています。

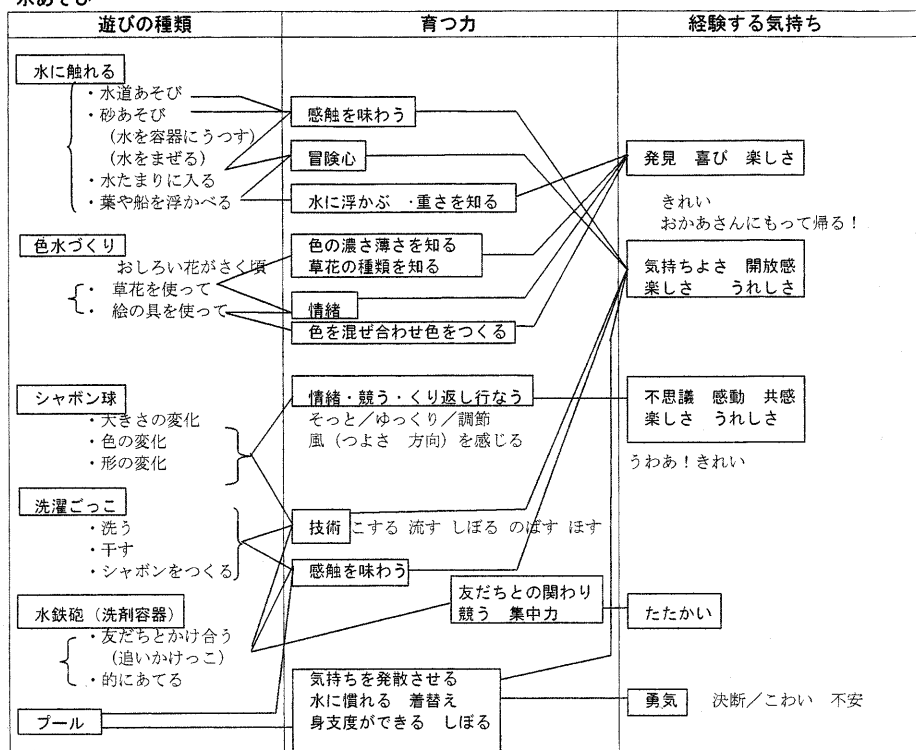
## 三、共同の遊びの中で何を学んでいくのか

幼稚園生活の最後に、こどもたちが展開した遊びのようすを、最終の姿としてお伝えします。

教育課程のⅫのブロックは、次のようなものです。

二月のはじめに、年長組(五歳児)は、箱根彫刻の森美術館へお別れ遠足に行きました。

# 水あそび



## ▲ストラクチャー (2) 水あそび

事前にでかけた教師たちは、グループ(十人単位)の活動として、ブロックⅫの内容をどう計画するかを考えました。

広い野外の美術館で、こどもたちは自由に遊ぶことができますが、広さゆえに、美術館の地図を作製して渡すことにしました。また、いくつかのポイントを作って、グループの全員がそれぞれに挑戦し克服しなければならぬ課題も作りました。遊びの中では、シャボン玉のお城(はちの巣のように透명한シャボン玉が連なってできている造形

### 留意点

- ・遊び終わって手を洗う習慣が身に付くようにする
- ・子どもがどのような目的で作っているのかを見極め、目的に応じて声を掛ける
- ・必要に応じて補助をしたりアイデアを出す
- ・自由な発想に共感し、受け止める

- ・粘土へうの先を他の人へ向けたり、持ったまま走ったりすることのないようにする

- ・頑張った姿を受け止め十分に認める
- ・子どもが自由にじっくりとできるスペースを確保する。

- ・入園スタート時にフィットする素材であること
- ・年長児になると2学期には遊ぶ姿が少なくなる

- 友だちと拘わることが難しい子どもが一人で遊んでいる姿がある
- ・潔癖症の強い子どもにとってはなじみ難い素材である

結び方・園児が中に入つたときのたわみ方・網目の中に見える体・つかんでいる手などを、写真にしてみました。今までの

作品を全員が登るために、いろいろ力を貸したり、はげましたり、お尻を押したりと苦勞もありました。もう一つ、遊びの中の課題だけではなく、園に帰ったら、ネットのお城の絵を描こうという課題をもっていました。

それは、三月のはじめまで続いたプロジェクトになりました。教師は、ネットのお城のたくさんの写真をとって、教材の資料となる準備をしていました。ネットの色・網目、

### XII 個を輝かせ自立する

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 発達課程  | ひとりひとりが自覚をもち、自分たちで意欲的に遊びや生活を展開していく時期                                                                                                                                                                                                                                                         |
| ね ら い | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自信と責任をもって行動し、集団の中でひとりひとりが自分のもっている力を十分に発揮して選ぶ</li> <li>○生活に見通しをもち、自分たちで遊びをすすめていく充実感を味わう</li> <li>○友だちとともに、園生活の楽しさを満喫する</li> </ul>                                                                                                                     |
| 内 容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○友だちとのつながりを楽しみながら、今まで経験してきたことを生かして遊ぶ</li> <li>○友だちと協力して遊びを進め、互いに理解しあう楽しさを味わう</li> <li>○自分の考えたことを自信をもって話したり、友だちの意見を聞きながら自分なりに考え行動する（はっきりした言動）</li> <li>○冬の自然や自然現象に興味をもち、冬ならではの季節感を味わう</li> <li>○一年生になることに期待をもちながら、まわりの人々に感謝の気持ちをもち、園生活をたのしむ</li> </ul> |

### ▲教育課程XIIのブロック

# 粘土遊び

| 遊びの種類                                                                                                                                                                                                                                                                                | 育つ力                                                                                                                                                                             | 経験する気持ち                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>感触を味わう</p> <p>型抜きをする<br/>(粘土版付属の型抜きを利用して)</p> <p>物を真似て作る</p> <p>自分で考えて作る</p> <p>粘土ヘラを利用する<br/>・模様をつける ・切り刻む<br/>・粘土をつける ・粘土につける<br/>・穴をあける</p> <p>友だちと一緒に作る<br/>・同じ物を作る<br/>・役割を分担して作る<br/>・合作をする</p> <p>作ったものを見立てて遊ぶ<br/>・ごっこ遊び<br/>・他の遊びの道具を小道具として活用する</p> <p>友だちとやり取りをして遊ぶ</p> | <p>形・質感の概念</p> <p>想像力<br/>力加減の仕方<br/>手先の器用さ</p> <p>観察力<br/>表現力</p> <p>想像力</p> <p>道具を使って工夫する</p> <p>友だちとの関わり<br/>協力し合う<br/>責任感</p> <p>想像力</p> <p>工夫する言葉(やりとり)</p> <p>イメージの共有</p> | <p>自由自在に形を変化させられる一面白い</p> <p>作ろうとする意欲<br/>作る楽しさ、難しさ→葛藤<br/>イメージを形にできた達成感・嬉しさ<br/>↓<br/>できなかったもどかしさ<br/>自己満足</p> <p>向上心<br/>道具を使うことによるの便利さ<br/>及び新たな発見</p> <p>友だちと一緒に作る楽しさ<br/>作ったものを認めてもらいたい！<br/>↓<br/>認められた喜び<br/>認めてもらえなかった悔しさ</p> <p>自分で作ったもので遊びをする楽しさ<br/>やり取り・かけ引きの魅力<br/>→ 友だちと一緒に遊び、楽しい<br/>イメージ実現化への楽しさ</p> |

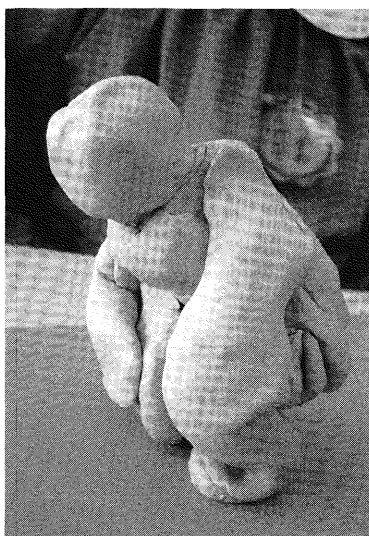
## ▲ストラクチャー (3) 粘土遊び

活動の中で、教師たちは、運動会の絵、発表会の絵と描いてきても表現が深まらずどうこどもたちに働きかけるかを考えていたのです。

粘土で、体の動きを表現してみる・毛糸を使ってネットを作ってみる・ネットに風船や人形をいれて飾ってみる・木片を利用して網目のような効果を試してみる・部分的に作品を描いて絵の具やクレヨンの素材の生かし方を試してみるといったそれぞれのこどもの活動

がすすみました。その活動の中で、教師がはつとさせられることもありました。粘土で体の動きを表現してみたとき、立体的な人物を想定して活動に入ってみると、机の上に偏平な人物を作ることともいって、おとなの感覚で考えることとの違いを感じました。

その後、できあがった絵や、それぞれの過程で生まれた作品を、「こゆるぎ美術館」として公開した



▲かがんだともだちの粘土の試作品



▲毛糸を使ってネットを作ってみる（以前の活動でマフラーを作った経験をもっている）。



▲自分の絵を描いてみる（じっと考えて作品にしていける）。

ということになりました。

美術館にするためのレイアウトを子どもたちで行ったり、話し合ってポスターを作ることを計画しました。他の学年を呼んで美術館を開く日に、案内の放送が入りました。子どもたちに話しかけながら部屋へ入ろうとすると、「園長先生、しーっ」と制され、子どもたちの経験した美術館でのマナーが、学びとして息づいていることを知りました。

この一連の計画は、子どもに自由に任せておくだけでは想像は生まれてこないことを、伝えていきます。経験から観察をするべくさせる教師の教材や資料づくりが、重要なのです。

（学校法人道德学園 こゆるぎ幼稚園 園長）

付 昭和五年に創設された、こゆるぎ幼稚園は、本年で七十六年めを迎えました。「こゆるぎ」というのは、神奈川県小田原市の古名です。